

# 道教組

2019年7月22日発行

DOKYOSO NEWS VOL.551

教職員とその家族を守る  
全教自動車保険

## 5つの特徴

- ①無事故割引を引き継ぎます
- ②団体扱い割引を10%に拡大
- ③家族の車もまとめるとさらに割引
- ④退職者もメリット引き継ぎで安心
- ⑤申し込んだその日から安心

有限会社 川上企画

(道教組指定代理店)

札幌市中央区大通西12丁目4-78  
TEL:0120-222-789 FAX:011-218-2472



7月20日に「教育全国署名北海道スタート集会」が行われ、全道各地から28人が参加しました。  
集会では、全教書記次長の波岡知朗さんから、教育全国署名スタートから30年の歴史や、教育府負担増などの情勢について、具体的な図表などを示しながら詳しい説明がありました。文科省が作成した資料によると、大学生2人が下宿等をする場合、単年度の平均可処分所得に占める教育関係経費の割

## 教育全国署名北海道スタート集会 すべての子どもたちが 安心して学べる教育条件整備を

・全教いぶり 中里明雄さん  
西胆振では高教組とともに駅前街頭署名をしている。高校生も参加してくれ



### ●各地のこころみ経験交流

その後、各地のとりくみ経験や決意などの交流が行われました。そして、大通公園へ移動して街頭宣伝・署名行動を行いました。55筆集まりました。



合は8割を超えます。大企業や富裕層に応分の負担を求め、軍事費を削り、OECD諸国平均なみに教育予算を増やすことが必要です。  
集会では、「教育全国署名の目標を全道で8万筆とする」などの方針や予算が提案されました。



・宗谷教組 遠藤玄さん  
子どもの貧困対策プロジェクトが立ち上がった。教育関係者に加えて市内の企業も参加している。稚内型奨学金の創設をめざし、企業の協賛金も検討している。稚内北星学園大学は募集停止となる可能性もある。地元大学の存在意義はとて



て、高校生が声をかけると反応が全く違う。教え子とともにいう署名行動を追求したい。  
・上川教組 中村哲也さん  
学習が大事だと感じた。単なる署名の数を集めるだけのとりくみとしないために、自分の一筆がどう影響があるのかを学習し、成果を認識すること、署名による対話によってリアルな要求を聞き取ることを位置づけた。



も大きい。地域との力合わせが大事で、今こそ地域に出でとりくみたい。

# 全道各地で、集い合い・学び合い

## 全釧路 第2回連続教育講座

6月29日(土)に、釧路市生涯学習センターまなぼつとで開催されました。若い先生方が日頃悩んでいること、実践上の悩みなどを交流し合い、少しでも元気になってもらおうという趣旨で、実践交流会を行いました。

実践を発表していただいた先生方は、帯広、中標津、乙部町と全道各地から来馴していただき、組合員ではない先生方にも実践発表をしてもらいました。

どの若い先生方も本当に忙しく、厳しい日々の中頑張っています。参加者からも自分の抱えている悩みや話され、実りある交流会になりました。



## 宗谷 憲法と平和を考える学習会

7月14日(土)に、稚内市総合文化センターで開催されました。一般参加の方も含め、約30名で学びました。

講師は、元イスラエル空軍兵士、ダニー・ネフセタイさんです。退役後アジアの旅に出て来日し、家具職人として創作活動に従事する傍ら、平和活動

で全国を回っています。

日本に移住後、イスラエル軍によるガザ空爆によって多くの子どもが犠牲となったことに心を痛め、また、

昨今の日本の情勢にも思いを持って行動をされています。

## 胆振 胆振の歴史と文化を知るFW

7月13、14日に、民教や地域の団体との共催で行われました。講師は、元組合員で火山マイスターの佐茂厚美さんです。

1日目は有珠山銀沼火口巡検でした。昭和新年と有珠新山の噴火の説明を聞き、実際に山を見て、「地球は動いている」と実感しました。その後、三松正



夫記念館で、昭和新年の所有者、三朗さんの説明を直に聞くことができました。

2日目は、洞爺湖ゼロポイント巡検、西山山麓火口散策でした。散策路を外れての詳しい解説は、佐茂さんの、教師としての生き方、哲学も垣間見えたように感じました。



## 札幌 大人の社会見学

7月21日(日)に、円山動物園へ行きました。予想以上に見応えがありました。今年は象が4頭やってきたので、開門と同時に、象エリアに。本物の動物の「生命」を間近に見るのは、とても感動的です。ひとりではなく組合の仲間たちとお喋りしながら見られるのが非常に愉快でした。

動物園に来るたび、知らないことがたくさんあり、動物を見ながら人間のことを考えます。2時間半では見切れない、充実した円山動物園でした。「また見に来よう」と口々に言いつつ、お昼を食べて帰路につきました。



## 第25回参議院選挙結果についての道労連談話(抜粋)

7月21日に第25回参議院選挙の投票が行われ、「改憲」勢力は改選前の議席と合わせて3分の2を割り込みました。自民党は改選前から9議席減り、単独では過半数にも届きませんでした。全国32の一人区では、すべての選挙区で野党統一候補が実現し、10の選挙区で野党統一候補が勝利しました。改選前の野党の現有議席は2選挙区しかなかったことをふまえると、10議席に増やしたことは市民と野党の共闘による大きな成果です。

北海道選挙区は、3つの議席をめぐって激しい選挙戦がたたかれ、与党が2議席を占めるという残念な結果でした。

北海道では、戦争をさせない市民の風・北海道と各野党・候補者がそれぞれ政策協定を行い、要求で結集し、要求を実現するための選挙戦を職場と地域で旺盛に展開しました。

投票率は過去2番目の低水準にとどまり、北海道は前回よりも3ポイント低下しています。だからこそ、くらしや雇用の問題で共同の運動を大きく広げていくこと、そのための社会的キャンペーンを実践していくことが、投票率を引き上げ、政治への興味・関心・参加を高めていく上でいっそう重要になっていきます。

選挙結果は、政権に対する白紙委任ではありません。「8割の人は自民党に投票していない」のであり、出口調査でも「安倍政権下での改憲」に反対が賛成を上回っています。この秋からの臨時国会に向けて、消費税10%増税、日米FTA、日雇い派遣「解禁」の動きなど、くらしと雇用に重大な影響を及ぼす課題でたたかいて強めていくことが必要です。引き続き、市民と野党の共闘を発展・深化させながら、憲法を守り、憲法が隅々までいきわたる社会の実現をめざして奮闘する決意です。

2019年7月22日  
北海道労働組合総連合事務局長 出口憲次